

【月刊】

キャッチ ピース

35

通巻113号/1995.9 定価100円

自衛隊の海外派兵を食い止め、大幅軍縮を！
米軍基地を撤去しよう！
反核運動を継続し、核廃絶を！
憲法9条を世界に！
市民による平和政策を提起しよう！
草の根の国際共同作業を進めよう！

タヒチで

フランスの核実験再開に抗議して9月2日と3日にタヒチで行われた平和行進と反核国際集会、反核国際議員連盟結成会議に、独自に鳥袋宗康参議院議員と沖縄から参加した。

世界各地から八十名以上の議員や反核平和団体など多数が参加し、核実験に反対してフランスからの独立を目指す青と白の旗を持つタヒチの人々と一緒に平和行進を行い、反核国際集会や国際議員連盟結成を成功させた。

主催者のファーア市長オスカー・テマル氏は、フランスはタヒチやポリネシアを植民地としか見ていないと繰り返し強調した。

フランスは核実験を強行し、タヒチで抗議の暴動が発生したが、フランスが主張する「核抑止力」が幻想にすぎないことを平和運動は明らかにする必要がある。日本政府も「米国の核の傘」と言う核抑止力信仰にどっぷり浸かっているのだから。(沖縄・伊波洋一)

詳しくは「核兵器・核実験モニター」で報告。



超党派日本議員団 (9.2タヒチ 写真・伊波洋一)

【沖縄から】 安保が奪った少女の 人権

「地位協定」の見直しを
ストップ核実験：各地から
在日米軍基地に関する基地
周辺住民の意見⑤：横須賀

●維持会員 (月額) ●参加会員 (月額) ●通信会員 (年額)
個人1口1000円 個人1口500円 3000円
団体1口2000円 団体1口1000円
(会費は本誌購読料を含みます)

脱軍備ネットワーク
キャッチピース

九月二日

の大集会には、体調をくずして参加できなかったが、九月八日は満を持して「フランス核実験反対」のデモに参加する。こんな風に、いてもたってもいられない、何が何でも反対、という気分になるのは爽快だ。いやもちろん爽快なんて言っていない事象だし、反対行動を引き起こす事象がないにこしたことはない。実は知り合いのお兄さんという人が職場から車でフランス大使館へ行き、「核実験反対」という紙を貼って一晩駐車、翌朝そこから出社した、こんなふうな反対行動は初めてだった、という話を聞いて、意気を感じていたのだ。

いろいろな反対行動を、いろいろな人がやる、というのは今回の「核実験反対」では特に目につくような気がする。おや、と思ふような店や団体や雑誌が「反対」と言っていて、やるなあと思う。やるなあと思つたことのみわめつけは、フィリピン、マニラの反対行動だ。フランス大使館の前

私が気に入ったこと、と物

で、とにかく何か音を出すという反対行動で、その他の場所に参加した人もあわせて何千、何万という人が参加したらいい。テレビを見ていたら、楽しそうな顔をした人が、電柱をたたいたり、ゴミ箱をたたいたり、タンバリンを鳴らして踊ったりと思ひの行動をしていた。

私は今回の「反対デモ」では、手作りのランタンが気に入った。「ダメって言ったでしょ、核実験」と印刷された紙を軽く巻いて円錐形にし、紙コップに巻いて、ろ紙コップには長めの紙がささっていて、ろうそく立てになっている。夜にデモをする、このランタンにボツとあかりがついて、核実験反対の太字が浮き上がる。

今回の核実験について、まわりのいろいろな人と話す。「反原発」や「反安保」の話では、「そんなこと言ったって」と反論され、論争になることがしばしばあるのに、今回はそうよね、だめよねと共感する声が多々きく。どんなところで反対なの?ときくと、環境破壊だからという声と核兵器の

開発だからという声が多々だ。今までアメリカやソ連が何度も行ってきたことなのに、「冷戦」という呪縛が解けて見たら本当にヤバイと多くの人が認識するようになったのではないか。九月六日の夕刊各紙の紙面は迫力があつた。フランスが核実験強行という見出しと、坂本弁護士一家の遺体発見の記事が裏表でドーンとあつた。かたや「宗教団体」、かたや「国家」の殺人行為。どちらも同じ殺人なのだが、なぜか国家の方は許される。でも、そんな論理はそろそろ通用しなくなってきた、と思うのは楽観的すぎるだろうか。軍隊も武器も基地も、核抑止力という考え方も「殺人」だと思ふのだが。(リボンの騎士)



沖縄 米兵少女暴行事件が問うもの

軍縮と人権のための「安保」見直しを



各地で核実験反対行動 (記事8ページから)

九月四日沖縄で起こつた三人の米兵による女子小学生暴行事件は、私たちの「安全」を「保障」しているはずの日米安保体制と米軍の存在の暗部を白日のもとにさらけ出した。詳しくは伊波洋一さんの「沖縄から」を読んでほしい。被害者や家族に残された傷跡を思うとき、言葉に言い表せない思いがこみ上げてくる。それでも、この事件は、戦後五〇年間、米軍の駐留によって沖縄の人々が強いられてきた、大きな犠牲の

水山の一角にすぎない。それだけに沖縄の人々の怒りは深く激しい。事件をきっかけに、安保条約の下での在日米軍の権限を定めた「地位協定」(正式には「日本国とアメリカ合衆国との間の相互協力及び安全保障条約第六条に基づく施設及び区域並びに日本国における合衆国軍隊の地位に関する協定」)の見直しを求める声が高まっている。三人の米兵の身柄を日本の警察が拘束できないという、

シラク大統領に核実験中止を求める

ハガキキャンペーン

現在 9300通



右のキャラクター(ムルロア・ヤドカリ)をデザインしたハガキ。1枚20円。

中華人民共和国大使館 106 港区元麻布 3-4-33 電話 03 (3403) 3388 FAX (3403) 4925
フランス大使館 106 港区南麻布 4-11-44 電話 03 (5420) 8800 FAX (3446) 7361

占領下のような特権が地位協定第17条として、温存されている。当然の要求である。

地位協定の問題は「犯人引き渡し」だけじゃない

だが、地位協定の問題点は第17条だけではない。地位協定の規定と運用は日米安保と市民の主権・人権とのあらゆる接点に立ちはだかり、米軍の特権的地位を守っている。その例をあげよう。

①全土基地方式：米軍は「日本国内の施設・区域を使用することを許される」(2条1項)が、新たに施設・区域を設定する際の基準は何も定められていない。したがって、日本領土のいかなる部分も米軍は基地として使用することができる。

②一方的基地管理権：第3条では米軍は基地管理のために「必要なすべての定義」されようとしている。条約の改訂にも等しい重大な政策変更が、日本国内での論議不在のままに、なし崩し的に行われようとしているのだ。

米国内でも、地位協定見直しの声が高まりつつある。しかしそれは、このような日米安保の拡大強化の基盤をより安定したものにすることを意図しているのは明白だ。

私たちの「見直し」はまったく違う方向をめざす。日米安保の強化・拡大をくい止め、在日米軍基地の縮小・撤去し、最終的には軍事同盟の解消を目標に掲げて、軍隊の特権を一つ一つ占領し、解体する。そのための「見直し」だ。武村大蔵大臣はフランスの核実験を「狂気の沙汰」と批判した。しかし、「アメリカの核の傘」に身を寄せて安全を守り、そのために市民を犠牲に米軍に特権を与え続けている日本が、「狂気」から自由だなどと言えるだろうか。

次号では、地位協定問題をさらに突っ込んでとりあげ、市民の側からの安保「再定義」のための行動をよびかけていきたい。

(田巻一彦・編集部)
14ページに関連記事



措置を執ることができるとしている。これを根拠に横須賀では米軍は湾を勝手に埋め立てて「領土」を拡大していった。(14ページ参照)横田基地で二年前に起こった航空燃料漏れによる水質汚染の調査結果はまだ発表されていない。

③米軍まかせの基地返還：第2条3項には、施設・区域は「地位協定の目的のために必要でなくなったときは、いつでも、日本国に返還しなければならない」とある。しかし、必要かどうかの判断は米軍に事実上白紙委任。受け入れ国(日本)からの返還要請を制度化したNATO(北大西洋条約機構)在独軍の地位協定とは雲泥のちがいだ。

④艦船の無通告入港：日本政府は第5条を解釈し、入港する米艦船には事前通告の義務はない、としている。一九六五年、空母タイコンデロガが沖縄沖で水爆を海に落下させ、二日後に横須賀に入港したが、通告義務がないため入

港記録がなく、核持ち込み疑惑がもみ消された。

⑤低空飛行：空母艦載機が各地で低空飛行訓練を繰り返しているが、これも「地位協定の実施に伴う航空法の特例に関する法律」によって合法化されている。

基地縮小・撤去へ

市民の側からの

見直しを

十一月に予定されている日米首脳会談では「日米安保の再定義」が行われようとしている。在日米軍基地は「日本国の安全に寄与し、並びに極東における国際の平和と安全に寄与する」(日米安保条約第六条)ためのものから「アジアと太平洋における米国防衛の最前線を支え」「ペルシヤ湾にまで至る広大な範囲の局地的、地域的さらには超地域的な緊急事態に備る」(95年3月アメリカ国防省「日米安保報告」)ものへと「再

ワイセツ行為があっても、来年からは容認！

ブルーリッジ 長崎入港に 抗議

9/15-17



九月十五日、横須賀を母港にする米第七艦隊の旗艦「ブルーリッジ」が被爆地長崎に入港した。

たとえ横須賀を母港とする艦船であっても長崎入港には断固抗議するという姿勢で、三日間の連続抗議行動を展開。

一五日入港時には遊漁船など五隻が海上デモ。岸壁では、ブルーリッジから一〇〇メートルのところまで県評と市民団体が四〇〇人の抗議集会。十六日四時まで、テントを張り、Get Out Buieridgeの横幕を広げて座り込み。「兵士としてではなく市民として訪問を」という英文ビラを五〇〇枚配る。十七日は午前八時から追い出し集会。乗組員のワイセツ行為あり、市民に銃を振るわせるなどありでニュースに事欠かず。一般公開に市民二〇〇〇人集まる。

市長と知事は、「今年は一入港回避を申し入れたが、来年からは容認する」と言っており、艦船入港ラッシュが予想される。

兵器生産の恒常化に加えて艦船入港ラッシュでは「ノーモアナガサキ」を訴える資格はない訳で、行政への強い働きかけが課題となった。

(舟越歌一/ピースバス長崎)

沖縄から

沖縄がかわれば、アジア・太平洋がかわる

報告 ⑬

「沖縄から」
「オキナワボイス」
編集委員

伊波洋一
(沖縄中部地区労務局長)

〒901-22
沖縄県宜野湾市志真志517-1
沖縄キリスト教平和センター-気付
TEL (098)898-6628
FAX (098)897-6953
郵便振替 鹿児島 2-11249

米兵三名による小学生少女暴行事件

全世界中でフランス核実験再開に抗議していた九月第一週、沖縄では九月一日にハリヤ一戦闘機が近くの演習海域で墜落し、四日には米兵三名による少女暴行事件が起こった。事件は、県内三基地の米兵三名が計画的にレンタカーを借り、九月四日に本島北部地区で買物帰りの小学生をら致し、近くのビーチでガムテープで縛って暴行に及んだもの。容疑者三名はキャンプコート二の海軍兵

(二二)、キャンプハンセンの海兵隊員(二〇)、キャンプキンザーの同(二二)。一人は米本国に妻と二人の子がいるという。

県内で米軍への怒りが噴出

今回の事件が県民に与えた衝撃は大きく、多くの人々に二十三年以前の米軍統治下で起きた幾つかの事件を思い出させた。地元紙の琉球新報は事件に関連して『いまだ米軍占領下』という特集を連載しているように、戦後五十年続いている米軍基地の重圧への怒りが噴出している。

県内の市町村や議会、政党、平和団体、女性団体、民間団体など多くの団体が抗議声明や抗議行動を次の通り行なっている。

九月九日 県教育長が抗議談話

十二日 県政策調整監が在沖米軍司令官が米総領事に抗議。社大党、新進党、さきがけ沖縄が那覇防衛施設局に抗議。上原(社会)、仲村(新進)衆議院議員が外務省、防衛施設庁に抗議。北部市町村会、北部議長会、沖縄市議会が抗議決議。

十三日 県政策調整監が上京し外務省・米大使館に抗議。自民党、社会党、公明沖縄が米国総領事に抗議。照屋(社会・護憲)参議院議員と社会党県本部が米国大使館、外務省、防衛施設庁に抗議。那覇市議会、浦添市議会、

中部市町村会が抗議決議。沖縄弁護士会が抗議声明。

十四日 新川沖縄市長、宜保浦添市長、社大党、共産党県委員会、県婦協、北京会議NGO九五実行委員会、新日本婦人会県本部が米国総領事に抗議。具志川市長、具志川市議会がキャンプコート二司令官に抗議。県町村会、北中城村議会、豊見城村議会、伊平屋村議会が抗議決議。一フット運動の会が抗議声明。

十六日 宮古島女性四団体が抗議声明

十八日 宜野湾市議会、知念村議会、嘉手納町議会、恩納村議会、南風原村議会、読谷村議会が抗議決議。沖教組、高教組、さきがけ沖縄が米総領事に抗議。長崎のぼつてん・うーまんの会が米司令官に抗議文送付。

十九日 大田知事が上京し、首相官邸で野坂官房長官、外務省で河野大臣に県民の怒りを伝え地位協定見直しを要請。沖縄県議会、東風平町議会、中城村議会、大里村議会、座間味村議会が抗議決議。

二十日 糸満市議会、西原町議会が抗議決議。市町村教育長協会、県PTA連合会が米総領事に抗議。以上が九月二十日現在であるが、二十六日に沖縄平和運動センターの県民総決起大会、二十三日に女性団体の抗議集会が予定されている。

焦点になる日米地位協定

県内では、米軍活動の自由を保障している日米地位協定が焦点となりつつある。

事件が明らかになったのは九月八日であるが、五日に米軍捜査機関が三名の身柄を拘束しており県警は身柄の引き渡しを求めた。しかし、米軍は日米地位協定を盾に容疑者引き渡しを拒み続けている。

同協定第十七条五項(C)は「日本国が裁判権を行使すべき合衆国軍隊の構成員又は軍属たる被疑者の拘禁は、その身柄が合衆国に手中にあるときは、日本国により公訴が提起されるまでの間、合衆国が引き続き行なうものとする」とし、日本側の取り調べなどに支障が多い。九三年には強盗傷害で米軍拘束中の容疑者二名と十九才の女性に暴行した陸軍兵士が米本国に逃亡する事件も起きている。

現行の地位協定の各条項は、米軍人・軍属保護を最重要視しており、米軍演習や犯罪で被害を受ける県民の視点が欠落している。

昨年末に行なわれた住民、商業地域を通る武装行軍訓練が県民から総反発を受けたときも、日本政府は協定の五条二項で基地間の移動はできるとして行軍訓練を認めた。

しかし、行軍は平和団体の抗議行動で途中で中止され、その後行なわれていない。

米兵少女暴行事件

日本政府は地位協定の見直しを拒否

野坂官房長官と河野外務大臣は、十九日の大田知事の地位協定見直し要請に対し「米軍は捜査に協力しており、捜査に何ら支障はない」と見直さないことを明らかにした。

大田知事は、「主権国家で捜査権が及ばないのは、県民感情などから内面的にも重要な問題で、県民は納得しない。日米二国間の友好、親善という側面からいかなるものか」と批判した。

今回の事件で、大田知事は進行中の軍用地強制使用で代理署名を保留し続けており、衛藤防衛庁長官は見直しの検討を十八日に示唆した。政府の見直し拒否を受けて、二十日社会党は協定見直しを政府に要求することを決めた。自民党合同部会も見直しを検討する方向を打ち出した。

十九日米国外務省は協定通り起訴後に引き渡すと声明。同日、米國務省も公式に遺憾を表明、起訴後の引き渡す方針を明確にしながら、九月の日米安保協議委員会での事件を議題にすることを表明。

今回の事件は、米国内のマスコミでも取り

上げられ、日本国内のマスコミ報道を含めて沖縄の米軍基地に関心が向かいつつある。

凶悪化する米軍人犯罪

今回の事件以外にも、今年五月に宜野湾市でキャンプバトラ一所属一等兵(二〇)が、付き合っていた女性(二四)を自宅前でハンマーで数十回殴り無残に殺害した事件が起こり、六月三十日の起訴され、身柄は日本側に引き渡された。今回の事件翌日の九月五日に第一回公判が開かれ、被告は心神こう弱を主張している。

九三年四月には、キャンプハンセン所属の十八才の少年兵がブロック片で三十三才の町民を殴り殺す事件が金武町で起こった。一九七二年の施政権返還以降に米兵によって十一名が殺害されている。

沖縄を犠牲にする日米安保再定義

現在、日本米国の両政府は米軍基地の重圧に苦しむ沖縄の現状を何ら緩和しようとする事なく、在沖米軍基地の強化と任務の拡大するための日米再定義の交渉を進めている。今回の事件を契機に、日米地位協定問題だけでなく、現在の日米安保の現状を明らかにし、現在進行中の再定義の行方を違う方向に変えていくことが私達に求められている。

足下の核に向き合う

札幌

NPT無期限延長に続く、中国・フランスの核実験強行は、核廃絶を願う人々への裏切りであり、世界各地で核の声が大きくなっています。

ここ札幌でも、六月に市議会が核実験に対する抗議が決議された他泊原子力発電所からの使用済み燃料が初めて



核燃料搬出反対行動 (9.19 岩内にて)

海外へ搬出され、再処理されることから「核のゴミ退治キャンペーン」が七月から始まりました。核燃料輸送の学習会や非核法制定の署名、北海道知事に搬出の情報公開を求める行動、北海道電力への抗議、そして九月一日には一〇〇〇人規模の「ストップ核実験北海道集会」が行われました。また、グリーンピースのよびかけに応じてとりくんだシラク大統領あての抗議署名にも多くの賛同がありました。

核実験強行に

抗議する

九月六日 キャッチピース

シラク・フランス大統領へ
あなたの耳には世界中からわき起こっている抗議の音がきこえないのでしょうか？
誰が、核実験再開を支持していますか？
ムルロア環境はフランスの中庭ではありません。南太平洋民衆の生活の場であり、世界共通の財産です。あなたには南太平洋の人々の生命も、地球の環境も傷つける権利はありません。

貴国の核実験は、植民地主義と核抑止論という人類が乗り越えるべき旧時代の最悪の遺産を具現するものです。これ以上の核軍拡は、人類から希望と未来を奪います。今もなお、本国から遠く離れた島々と民衆を支配し、抑圧していることを恥じるべきです。

核実験と植民地支配の「自由」が許される時間と空間には、決して「平等」も「友愛」も共存することはできないことは明白です。

9月5日の核実験を南太平洋の人々と世界に謝罪し、もう二度と行わないことを約束しなさい。



発から使用済み燃料を積みイギリスへ出港してしまいました。

「核兵器廃絶の運動とあわせ、自らの足もとである日本の原子力政策の転換と、非核三原則の法制化(非核法)をめざすとおりくみを、共にすすめることが重要だと思えます。それが二十一世紀を核のない地球にするための展望を切り拓くものとなることを信じ、今後も活動していきたいと考えています。(山口たか/市民ネットワーク北海道)

海道

大使館にたえず抗議の人波

東京

九月二日代々木公園で、フランスの核実験再開に抗議する「核のない地球を！ストップ核実験一万人アクション」が行われた。この日未明にも強行かと思われた実験再開は「週明けまではない」(フランス政府)となったが、多くの団体・個人が全国から駆け付け、強風の中、それぞれのスタイルで実験中止を求める声を上げた。



9.2 東京

正午、朴保&切狂言のレゲエ演奏がオープニングを飾り、続いてダイ・インが呼びかけられる頃には、会場はたくさんの人で埋まった。主催者あいさつのもと、寸劇、詩の朗読、各団体・個人からのアピール・メッセージが続く。金子マリ、チャーなどによるロック演奏の盛り上がりもそのままに、デモに出発。ラップやアピールで核実験反対を

ストップ！核実験 各地から

訴えるデモ隊に道行く人々の反応も良く（飛び入りもあったそう）、原宿・渋谷の繁華街を通るコースを歩いた。

九月四日からフランス大使館前ではフランス人神父のエドワードさんがハンストを開始、全国各地で四〇〇人以上がこれに呼応してハンストを行った。核実験強行の後は大使館前の道路は連日数百の抗議の人波で埋まった。「ストップ核実験連絡会」は今後も緊急抗議行動を行っていく。連絡先は〇三（五三五）五四〇〇グリーンピースジャパン。

（松戸志郎／編集部）

平和船団がアピール

横須賀

九月十日、ヨコスカ平和船団呼びかけの海上デモが行われた。中仏の核実験強行とインディペンデンス母港化四周年への抗議が当日のスローガンだったが、さらに広く「この海を軍隊から取り戻す」ことをテーマに昨年からの定例化された催し。当日は二〇人ほどが集まり、大きなボードを広げての海上ア

ピール、ボートレース、カヤックによる吾妻島一周など盛り沢山の内容で、「この海は市民のもの！」と訴えた。

（松戸志郎／編集部）

幅広くNGOが

名古屋

九月二日、名古屋NGOセンター、チェルノブイリ救援・中部など、東海地方のNGO三二団体が集まり、「核実験を即時、止めて下さい！」という共同声明を発表し、仏・中国両大使館に抗議声明を送付しました。

これまで反原発運動の人々が中心の核実験反対運動に、アジアでの援助活動を進めるNGO団体の人々が広範に加わって今回の声明を出しました。「仏の南太平洋の『植民地』での実験は差別行為であり、中国の核実験は、周辺の先住民への影響は深刻である」との意識からです。同時に、仏・中国両大使館への抗議ハガキも配布しはじめました。九月六日の仏核実験強行に際しては、夕方、緊急に名古屋市中心部の栄に集



九月の船に乗るよ

志沢晴彦

遠い南の海へ
火の川と水の川を越えて
歩き続けた果ての波止場から
九月の船に乗るよ

石が砕けささっている
どんな神様が悪戯したのやら
砂浜に影をおとす
九月の船に乗るよ

遠い南の海の果ては
九月に春が来ると言う

昔は誰も信じなかったこと
九月の船に乗るよ

まだ世界が半分しかなかった頃
ある旅人が雨上がりの夕方
南の水平線に見えた淡い淡い
みどりの空にその春をみただ

九月の船に乗るよ
春を信じた最初の旅人

波止場には海の鳥だけが
お見送り
彼らは渡り鳥の仲間から聞いて
知っている
だから出発を祝っている

九月の船に乗るよ
白い船 春に向かって

ミッドナイト

パーキング

右の詩を寄せてくれた、横浜の志沢さんは、八月三十一日から九月九日まで、毎晩フランス大使館近くの道路に愛車を止めて、オールナイトの抗議行動をつづけた。お疲れさま。そしてありがとう。

まり、抗議集会・座りこみ行動で抗議の意志を表明しました。

今後、仏製品の不買運動などをあげ、核実験を中止に追い込もうと声を上げつづけようとしています。

（河辺昭敏／あいち反戦の会）

キャンドルでピース

マーク

京都

京都でも中仏の核実験に対しては、様々な行動が行われた。以下は市民中心の抗議行動。

八月九日には、出町三角州で「フランス核実験中止を求める市民」の呼びかけによる、フランス核実験中止を訴えるパフォーマンスが行われた。また八月中旬に何度か四条河原町で街頭情宣を行った。

京都市はパリ、西安と姉妹都市の提携を結んでいる。八月三〇日に、反戦ドタバタ会議、「フランス核実験中止を求める市民」など数団体・個人の連名で京都市長に対して、フランス・中国の核実



（青木雅彦／反戦ドタバタ会議）

験に対して、姉妹都市ルートで抗議・中止の申し入れを行うよう要請した。田邊市長はこれを受け入れ、九月一日に両国に対して要請文を送った。九月二日夜には、三条河原で抗議集会が開かれた。動員なしで一〇〇名の参加。キャンドルで河原に反核マークを描くなどの意思表示を行った後、市内をデモ行進。途中通行人の参加もあり、円山公園到着の際は、出発時よりもデモ隊が膨らんだ。

日本の核政策を変えよう

広島

ヒロシマ・ナガサキの五〇周年を終えて、「核兵器をなくそう！」という思いをさらに深めていた私たちにとって、中国、フランスの核実験の強行は、「挑戦状」をたたきつけられたようなものであった。広島ではヨットのグループが早々とタヒチでの抗議行動を決め、被爆者団体、平和団体が次々と行動を起し、タヒチに抗議団を送り盛り上がりを見せた。

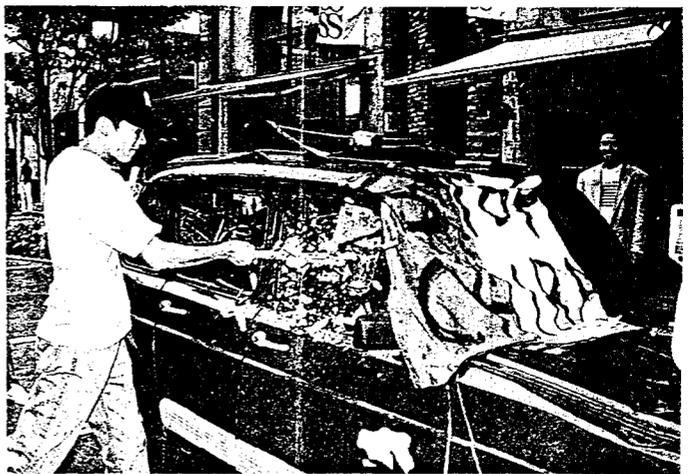
私たちも「中国、フランスの核実験中止を求める広島共同行動」を呼びかけ、抗議ハガキの配布、街頭でのアピール、抗議声明の送付、原爆ドーム前での座りこみなどの取り組みを繰り返し、抗議の意志を表明していった。

そのなかで思ったのは、フランスの核実験再開で、日本の核廃絶に対する消極的な姿勢、ブルトニウム政策の問題をあらためて考えなおすことになったことである。その意味でフランスの

問題ではなく、私たち日本の問題であり、今まで訴えてきている非核法制定の運動を更に抜けていかなければならないと思う。日本を核廃絶の先頭に立たせ、この地球上から最後の一発の核兵器がなくなるまで運動を続けていこう！（林修二／ピースリンク広島・呉・岩国）

ルノーを壊す パフォーマンス に反響 熊本

参議院選挙の疲れを癒す間もなく、熊本でフランスの核実験再開に反対するキャンペーンを八月から開始した。シラク大統領領宛の署名とともに八月六日には、長崎に向かうピースサイクルのメンバーも参加して、夕方にデモを行った。このデモには警察のデモ申請で出会った中古車販売会社を経営する北村浩さんらも参加した。北村さんは独自に「核実験反対」などをステッカーもつくり、ばらまいた。八月に二七日には街頭に立つて署名集め。自分から署名に来る人の多いことと、中高



フランス車をハンマーでたたく若者
—熊本市新市街シャワー通り

核疑惑艦が来る

かもしれない

町だから 佐世保

フランスの核実験が目前に迫った九月二日、佐世保の目抜き通りにある松浦公園で三〇人が座り込みを行いました。

佐世保では、一九八九年七月九日「被爆二世教職員会」の若い女性教師によって、「核実験に抗議する佐世保市民の会」が結成され、座り込みが開始されました。それから六年、紆余曲折を経ながらも毎月九日、座り込みは途絶えることなく続いています。（長崎県内ではこのような「反核・平和」を訴える座りこみが六市六町で行われていて、毎年七月の最終日曜日には「核実験に抗議する長崎県内市民団体交流会」も開催されています。

しかし、この九月は、定例の座り込みだけを行うのではなく、核実験の中止を求めていくためにも数多くの行動が必要で、

という訳で、九月二日小雨の中で座

り込みとピラ配りを、また、七日には地区労主催の核実験抗議集会に合流して、同じく座り込みとピラ配りを行いました。

核搭載艦の寄港もありうる佐世保の住民だからこそ、核実験反対・核兵器の廃絶を強く求めていかなければならないと思っています。（宮野由美子／核実験に抗議する佐世保市民の会）



核兵器・核実験モニター NUCLEAR WEAPON & NUCLEAR TEST MONITOR

毎月2回1日、15日発行/購読料年間5,000円

●発行所 PCDS (太平洋軍備撤廃運動) / 平和資料協同組合 (準)
〒223 横浜市港北区箕輪町3-3-1
TEL:045 (563) 5101 FAX:045 (563) 9907
●編集責任者 梅林宏道

アクセス方法

(利用料金無料ですが、カンパをよろしく！)
①FAXの受話器を上げて②03-3813-8180にダイヤルする③音声案内に従って、STOP核実験情報BOXの番号200#を押す④送信メッセージの後ピーという音がしたら、FAXのスタートボタンを押すと、情報が送信されます。(音声情報を聞く場合は、③のところ、201#と押すと、録音された音声情報が流れます)

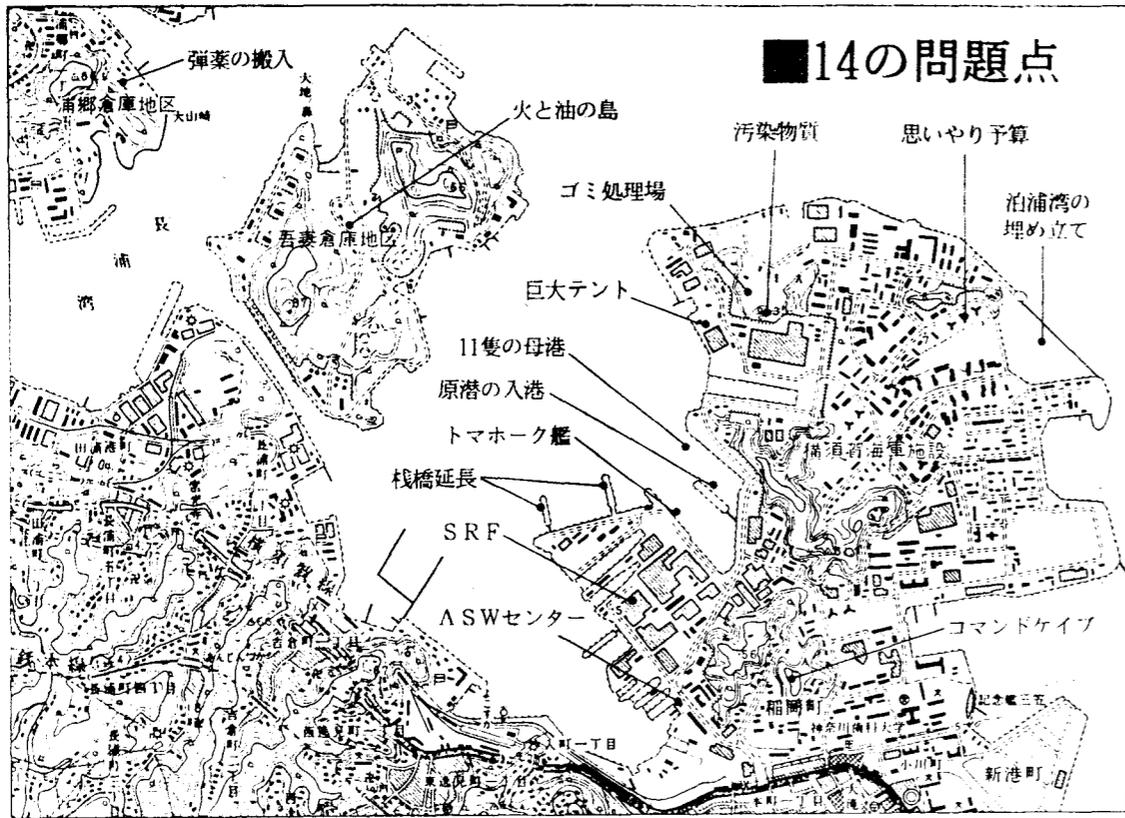
市民活動FAX情報ネット

ストップ核実験！情報

最新の運動情報がFAXと音声情報で取り出せます。

事務局 ●ピースネットニュース気付

TEL 03 (3813) 6490 FAX 03 (5684) 5870



14の問題点

基地の運用についても市民は大きな不満をもっている。泊浦湾の埋め立てはその一例だ。米軍は日本国の法令を一切無視してこの湾を埋め立てた。地位協定に認められた管理権の範囲というのが海軍の言い分だが、他国の領土を、その政府や関係自治体にことわりなく埋め立てるといえるのは、決して平等な関係とはいえないだろう。加えて、基地内で発見されたPCB汚染土壌を、この埋め立て地にばらまくといった行為は、許しがたい。

米会計検査院が指摘している外国基地の基地汚染の実態についても、海軍は情報を公開せず、市民の不安に答えようという姿勢は、まったく見られない。一、二号バースのPCB汚染の調査結果も、ついに公表されないままである。

ヨコスカ基地には、空母インディペンダンスをはじめとして、現在十一隻の艦船が母港をおいている。ソ連が崩壊したいま、なお十一隻の母港が必要な理由を私達は見いだせない。まして、これら母港を維持する経費の半額は私達の税金である。我が町の非軍事化を望む納税者として、この点は強く皆さんに伝えたいと思う。

基地内の施設設備にも、地位協定上の根拠を持たない「思いやり予算」がばらまかれていた。九三年ヨコスカ基地に投入された、この根拠のない資金は二四七億円。すでに六〇件をこえる施設が「違法」な出費によって建設されている。

最後にひとつだけ、個別の基地についても述べておきたい。浦郷倉庫地区(FAC A3117)は人口密集地に隣接した弾薬庫だ。広島県の広弾薬庫では取り扱うべきではないという勧告が出ているが、浦郷倉庫にも危険度標識「1」の弾薬が搬入され、貯蔵されている。弾薬庫内にも、危険度標識「1」を見付けることができる。

国防省が定めた、「爆薬および爆発物安全基準」をみても浦郷弾薬庫が安全基準を無視して使用されていることは明らかだ。浦郷倉庫を弾薬庫として使用することは中止すべきだ。

海軍ヨコスカ基地 (FAC3099)

基地縮小と公正な運用を 非核市民宣言運動ヨコスカ

米海軍ヨコスカ基地 (FAC3099) は四方所、三施設からなり、面積は三、三〇七、七〇〇㎡。基地は地域の約三・三%を占めている。米海軍基地に提供されている区域は、旧日本海軍の指令部と造船部がおかれていた場所、市の一等地と言っている。市は町作りの基本計画で米軍基地の全面返還を求め、市議会も全基地の返還決議を行っている。

私達市民ももちろん基地の返還を求めている。返還がすぐには実現しないとしても、必要な縮小と、公正な基地運営を求めたい。以下その理由をのべる。

市当局は産業立地確保のために、長期にわたり緑地を削り、海を埋め立てる政策を取り続けている。米軍基地が市の中心部を占領し続けていること、こうした乱開発は決して無関係ではない。町のどまんなかに外国軍の基地が五〇年もあり続けて都市の健全さが生まれるだろうか。

横須賀市はかつて大軍港都市を名のり、侵略戦争を支えた悲しい歴史をもっている。太平洋戦争が終結した一九四五年、我が街は軍港都市と訣別し、平和産業都市として生きることを選択した。市民の決意は平和憲法にもとづく地域特別法、「旧軍港市転換法」の成立に明確に現れている。「旧軍港市転換法」は、平和産業港都市建設のため、市長や市民に不断の努力を求めている。しかし、米軍基地の存在によって、「旧軍港市転換法」はその輝きを失いつつある。米軍は同盟軍である自衛隊を呼び、横須賀市はいつのまにか太平洋戦争終結前と同じような「軍都」となってしまった。「旧軍港市転換法」を成立させた市民の決意を崩すものとして米軍基地は存在する。

東京湾は世界でもっとも交通量の多い海域のひとつだ。ヨコスカ基地はその一角にあるが、狭い東京湾の交通ルールに反する入港方法を取るとい

**在日米軍基地
に関する
基地周辺住民
の意見**

5

海軍横須賀基地

致命的な欠陥をもっている。米艦船は、一日に八〇〇隻もの船舶が通過する航路帯を横切らなくては、ヨコスカ基地に入ることはできない。

東京湾では毎年二〇〇件もの船舶事故が発生している。原油、液化天然ガス、液化石油ガスなどの危険物を積載した船舶の通過も、ある年のデータでは六二〇〇隻にものぼる。LPGタンカーの衝突事故(一九七四年)、自衛隊の潜水艦衝突事故(一九七八年)も、米軍基地のごく近くで発生している。とりわけ市民がおそれているのは原子力艦船の衝突事故だ。一九九四年の原子力艦船のヨコスカ基地への入港は三一回。市にも国にも、万が一の避難計画も、核防災計画もない。

雨の北京で元気をもらって来た

山中悦子
編集部

今回の女性会議、NGOフォーラムには世界中から三万六千人の市民が参加。そして、我も我もと五七〇〇人の日本人。実に参加者の七人に一人が日本人だった。女性問題に関心があり、国際交流を重視する自治体が増えて(？)全国津々浦々の自治体からの派遣が多かった。かく言う私も公募で選ばれた市民派遣のメンバーとしての参加。費用の半額は市民の税金、市役所の職員も一緒に。というわけで、時間的にも行動面でも多少の制約ありの中でのアレコレ体験だった。

年齢もキャリアもバックグラウンドも違う市民派遣団一五名は自分たちのワークショップで、日本における女性問題や女性たちが取り組むさまざまな活動を横浜市民のプロフィールを紹介することで参加者に提示。私は平和運動に取り組む市民の一人として我らがキャッチピース

世界女性会議に参加して

編集委員のMさんを紹介した。「今一番重要なテーマは核実験反対」と三分間スピーチ。場所が隅っこの方のテントだったので、英語のわかる中国人がいなかったせいかわ捕されなかった。会場内でみかけたデモは、「核実験反対」「米帝国主義は帰れ」「債務は平等をつくらない」「セクハラを許さない」等々。さまざまな民族衣装の女性たちが三、四〇人の一団でパワフルに叫んでいた。この声が会場以外のどこに届いたかは不明。

雨の中ウロウロしていたら、「沖繩における軍隊・その構造的暴力と女性」のワークショップに出会った。今回の女性会議で採択された女性の地位向上を実現するための指針となる「行動綱領」十二の重大問題には「女性への暴力」、「平和の推進、紛争解決促進と武力紛争の女性への影響削減」の二項目も。

帰国後、米兵による少女への暴行事件

のニュースにショックを受ける。さらなるショックは、この件に関する地位協定問題で野坂官房長官が沖縄県民とあまりにも隔たりのあるコメントを出した事。十二の重大項目の十二番目は「少女」。野坂さん、あなたは女性会議に日本政府首席代表として出席して北京で何を学んできたのですか？女性の人権、少女の人権は「普遍的」なものであることを認識してきたはずではなかったのですか？

中国政府のNGO隔離政策が明白だった

会場のロケーション。ホテルからバスで毎日往復二〜三時間は時間のロスと体力の消耗。雨々々々の会場では足元が悪く行動も思うにまかせず。政府間会議の様子はいっさいわからず…。それでも世界中から集まった女性たちの元気をもらって私はエンパワーメント(力をつける)して帰ってきた。



原子力艦 入港情報

(76)

1995.8.19~9.22

S=原子力潜水艦(原潜) スタージョン級
L=原子力潜水艦(原潜) ロサンゼルス級

◆ 8/21	14:11	原潜ホノルル(L)	横須賀に入港。
◇ 8/31	09:49	原潜ホノルル(L)	横須賀を出港。
◆ 9/21	14:00	原潜パサディナ(L)	ホワイトビーチに入港。
◇ 同日	14:41	原潜パサディナ(L)	ホワイトビーチを出港。

●1995.9.22から9.22までの各地の原子力艦入港回数：()内は原潜

・横須賀	19 (19)
・佐世保	5 (5)
・初伊ビーチ (沖縄・勝連町)	6 (6)
合計	30 (30)



● 米国人の友人と核実験について話をした時、「フランスはパリで実験をやればいい」と私と同じ意見を持っていました。一回やっても八回やっても実行することには変わりありません。『The Wall』。友人の小学校三年生の子供たちに今回のことを社会科学の授業のように教え、参加してもらいました。女の子は、「ちきゅうをよこさないでください」と書きました。この地球は唯一のもので。彼はそのことを認識していないようです。中国は無言を言わずに実行してしまいました。あと一〇年もしたらこの地球あるいはこの世界は大きく変わると友人が私に告げました。有限の地球に住み、このままこれ以上のダメージが続けば、考えられなくもありません。(新美れい子/愛知県知多郡)

● フランス大統領へのハガキは大分たくさん皆に買ってもらったけど、キャッチピースなんて言うところから、こんな月刊物を送ってくださるとは知らなかった。私は原水爆禁止運動(平和運動)に熱心？な方だけど、私の動く範囲がせいまいので、私の様な者でも全国に大勢あれば

平和運動が大きくなるんだけど、平和のためならヨイコーラと動いているとしりです。(前田藤子/農家/鳥取県八頭郡)

● 反核実験のために南太平洋まで出て行った国会議員のお名前と事務所の住所を公開して、彼らを支援するハガキを出すよう、貴紙で呼びかけてみませんか？ そうやって軍縮を支持する議員の名を覚えておけば、次の選挙の時、少しは希望の持てる選択ができるのでは？

● それから国内で、中国への抗議が対仏ほどもりあがらない理由も日本人として見逃すわけにはいきません。また、その理由を乗り越えてなおかつ中国に抗議する道をさがすことが必要かと思えます。(新井晋司/滋賀県野洲郡)

● 田巻一彦という方の記事がありがとう(34号)中国の核実験と日本の軍拡。先日一般紙で「防衛費の二・九%増を要求する」という記事をフランス核実験反対の最中にしかも大蔵大臣も行くという時にみてびっくり。その後新聞では全く取り上げられず、他国に核実験をやめろといいながら自国の軍備を進めるなら、圧力にはならない。中国の二倍の軍事費が本当ですか。田巻氏に一般紙に投稿してほしい。私もしましたが、だめでした。

(YH/年金生活者/君津市)

お知らせ

キャッチピース 第5回 全国会議 11.25 (土) ~26 (日)

●佐世保で

詳しくは後ほどお
知らせします。



月刊キャッチピース

No. 35 (通巻114号)

発行●脱軍備ネットワークキャッチピース
連絡事務所●〒222 横浜市港北区錦ヶ丘

10-4 ハイツ幸1-B

☎ 045(433)3483

FAX 045(593)1824 (田巻気付)

編集●月刊キャッチピース編集委員会

郵便振替●G0160-7-136148キャッチピース

定価●100円 (通信会員年間3000円)

会計報告

(95.8.24~95.9.23)

[収入]

○前月からの繰越し	236,782
○今月の収入	106,300
会費収入	71,000
(内訳) 維持団体	0
維持個人	32,000
参加団体	0
参加個人	0
通信会員	39,000
カンパ収入	33,500
預金利子	0
資料収入	1,800

[支出]

●今月の支出	159,952
事務所代 (10月)	40,000
水道光熱費	1,969
電話FAX費	0
郵送費	67,122
文具・備品	3,185
印刷・コピー代	45,906
郵便振替等手数料	1,770
雑費	0

●次月への繰越し 183,130

*平和資料協同組合(準)の資料収入は別会計とします。

*行動費は行動プロジェクト毎の独立採算となっているため、それにあてはまらない収支のみがこの欄に計上されます。

編集室から

●九月二七日、東京総評会館の大会議室は四〇〇人の参加者で一杯だった。「沖繩の三米兵少女暴行事件を通して在日米軍基地を考える」緊急集会。主催は伊波洋一さんたち「沖繩、平和・女性市民運動東京行動団」。沖繩からの鮮烈なメッセージに励まされ、エリをただされる思いで電車に揺られた。帰り着いた神奈川は第二の基地県。横須賀のNさんと集会の打ち合わせをしながら書くニュースの最後の一行。(た)